

令和 8年度 小平市立小平第十二小学校 学校評価計画表						
学校教育目標		○明るく元気でたくましい子 ◎よく考えすすんで実行する子＜重点目標＞ ○たがいいになかよくする子				
目指す学校像(ビジョン)						
【目指す学校像】		こどもも、大人も、みんなの笑顔があふれる学校				
【目指す児童】		こどもが夢を描き、心弾ませて通う学校				
【目指す教職員】		・児童を心から慈しみ理解し、児童の良さや個性を引き出し伸ばす教職員・自らの課題を認識し、日々研鑽に努めるとともに、協働して磨き合う教職員・地域を愛し、地域や保護者と共感し、積極的に対話しながら信頼にこたえる教職員				
前年度までの学校経営上の成果と課題						
・朝学習や校内研究で国語科の学習を中心に言語活動に取り組み、基礎的・基本的な学力の定着を推進することができた。さらに思考力、表現力の向上に取り組んでいく。 ・会議の精選や教科担任制の導入により、時間を有効に使うことができた。その一方で、情報が共通理解されない事項も見られた。学年間や学級間の連絡を密にしていく。						
	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	努力目標(評価基準)		成果目標(評価基準)
学力向上	6年間を通して基礎的・基本的な内容を着実に定着させることができるように、授業を中心として指導を行う。また、常に指導と評価の一体化を図り、授業改善を行う。	児童が基礎的・基本的な内容を定着することができるように、ペア学習やグループ学習において友達と教え合ったり、自らの取り組みを振り返ったりする活動を充実させる。 指導と評価の一体化の視点から、常に授業改善を行うことができるように、校内研究やOJTを活用して、教職員の指導力を向上させていく。	授業、朝学習、十二小タイム、スマイルネクストなどを活用し既習内容を常に確認したり、振り返ったりすることができるような学習を計画し、基礎的・基本的な内容についての定着を図る。 校内研究では、児童の「学びの選択」の手立てに重点を置き、自ら学ぶ授業スタイルの構築を図る。また、OJTを通して教員が相互に授業を見合う場を充実させ、指導力の向上へとつなげる。	4 全学年全学級で実施	4 診断テストで、80％以上の児童が80点以上	4 診断テストで、80％以上の児童が80点以上
				3 実施率80％以上	3 診断テストで、70～79％の児童が80点以上	3 診断テストで、70～79％の児童が80点以上
				2 実施率70％以上	2 診断テストで、60～69％の児童が80点以上	2 診断テストで、60～69％の児童が80点以上
				1 実施率70％未満	1 診断テストで、60％未満の児童が80点以上	1 診断テストで、60％未満の児童が80点以上
健全育成（いじめ防止）	児童一人一人の理解に努め、望ましい人間関係の形成と自己表現力の育成および基本的生活習慣の定着を図る。	基本的な生活習慣が定着するように、児童への指導内容を全教員が共通理解し、統一した指導を行う。 いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。	児童が安全で規律ある生活ができるように、教職員・保護者・児童への「十二小スタンダード」「十二小のやくそく」の周知、徹底を図る。また、不登校児童への登校支援として「ニールーム」を今年度中に開設する。 生活指導主任が、朝会等で生活規律について指導する機会を設け、学校全体で生活習慣の定着を目指す。 年3回のふれあい月間では、いじめ防止授業を行い、児童理解アンケートを全児童対象に実施する。また、各担任がいじめ案件記録シートを作成し、いじめの認知や指導内容を日常的に記録する。実態の把握を行い、組織的に対応策を講じる。	4 教職員の取組評価で、肯定的回答90％以上	4 児童の自己評価で、満足度90％以上	4 児童の自己評価で、満足度90％以上
				3 教職員の取組評価で、肯定的回答80％以上90％未満	3 児童の自己評価で、満足度80％以上90％未満	3 児童の自己評価で、満足度80％以上90％未満
				2 教職員の取組評価で、肯定的回答70％以上80％未満	2 児童の自己評価で、満足度70％以上80％未満	2 児童の自己評価で、満足度70％以上80％未満
				1 教職員の取組評価で、肯定的回答70％未満	1 児童の自己評価で、満足度70％未満	1 児童の自己評価で、満足度70％未満
体力向上	仲間と共に運動に親しむことで楽しさを味わい、心身共に健康な生活を送ろうとする態度を養う。	友達との対話を充実させる指導を行う。友達同士で見合い、助言したり励ましたりする活動を増やし、一人一人が「できた!」を実感できる体育授業を推進する。 日々の給食指導や生活指導、家庭科や保健の授業を通して食育を推進し、よりよい食生活を送れるようにする。	朝活の運動、遊びの内容を精選し、運動が苦手な児童も楽しめるものにする。縄跳び仲間やマラソン仲間など、個人の成長だけでなく、友達同士で学び合い、互いに高め合う場を設定する。 健康への関心を高めさせるために、栄養士による食育指導や出前授業を設定する。自身の体への関心を高め、丈夫な体をつくらうとする意識させるために、保健の授業や養護教諭による保健指導を実施する。	4 教職員の取組評価で、肯定的回答90％以上	4 児童の自己評価で頑張れたと思う児童が90％以上	4 児童の自己評価で頑張れたと思う児童が90％以上
				3 教職員の取組評価で、肯定的回答80％以上90％未満	3 児童の自己評価で頑張れたと思う児童が80％以上90％未満	3 児童の自己評価で頑張れたと思う児童が80％以上90％未満
				2 教職員の取組評価で、肯定的回答70％以上80％未満	2 児童の自己評価で頑張れたと思う児童が60％以上80％未満	2 児童の自己評価で頑張れたと思う児童が60％以上80％未満
				1 教職員の取組評価で、肯定的回答70％未満	1 児童の自己評価で頑張れたと思う児童が60％未満	1 児童の自己評価で頑張れたと思う児童が60％未満
業務改善・働き方改革	健康管理や勤務時間を意識した働き方を推進するとともに、児童と向き合う時間や教材研究の時間を確保する。	低学年のエデュケーションアシスタント、中学年の外国語活動担任制、高学年の教科担任制を生かして、人員体制の強化を図る。 精選してきた行事を継続し、ゆとりのある教育活動を展開するとともに、業務改善について、教職員の意識改革を図る。	学級担任の教材研究や児童理解に充てる時間を確保するため、特別時程の設定や教科担任制、副担任制の実施や、スクールサポートスタッフやエデュケーションアシスタントの積極的な活用を推進する。 議題の把握や紙媒体の削減、校務分掌作業に充てる時間を確保するため、会議を精選し、校務支援システム、校務用端末を積極的に活用する。フレキシブルな働き方ができるように、時差勤務の取得を推奨する。	4 教職員の取組評価で、肯定的回答90％以上	4 教職員の達成率が90％以上	4 教職員の達成率が90％以上
				3 教職員の取組評価で、肯定的回答80％以上90％未満	3 教職員の達成率が80％以上90％未満	3 教職員の達成率が80％以上90％未満
				2 教職員の取組評価で、肯定的回答70％以上80％未満	2 教職員の達成率が70％以上80％未満	2 教職員の達成率が70％以上80％未満
				1 教職員の取組評価で、肯定的回答70％未満	1 教職員の達成率が70％未満	1 教職員の達成率が70％未満
コミュニティ・スクール	学校と保護者・地域の願いや課題を広く取り入れていく。コミュニティ・スクールの強みを生かした学校運営を行う。	各プロジェクトチームで諸課題の解決に向け、計画的に取り組んでいく。 家庭や地域へコミュニティ・スクールの取組の理解を図る。	各プロジェクトチームで課題を把握し、より専門的に解決を図っていく。保護者・地域ボランティアの活用を通して、教育活動をより充実したものにしていく。 学校ホームページやCSだよりを活用し、CSの取組を家庭・地域へ周知する。ボランティアを早めに募集し、より多くの方に参画いただけるよう促していく。	4 教職員の取組評価で、肯定的回答90％以上	4 保護者、地域の満足度が90％以上	4 保護者、地域の満足度が90％以上
				3 教職員の取組評価で、肯定的回答80％以上90％未満	3 保護者、地域の満足度が80％以上90％未満	3 保護者、地域の満足度が80％以上90％未満
				2 教職員の取組評価で、肯定的回答70％以上80％未満	2 保護者、地域の満足度が70％以上80％未満	2 保護者、地域の満足度が70％以上80％未満
				1 教職員の取組評価で、肯定的回答70％未満	1 保護者、地域の満足度が70％未満	1 保護者、地域の満足度が70％未満
				4 教職員の取組評価で、肯定的回答90％以上	4 保護者、地域の認知度が90％以上	4 保護者、地域の認知度が90％以上
				3 教職員の取組評価で、肯定的回答80％以上90％未満	3 保護者、地域の認知度が80％以上90％未満	3 保護者、地域の認知度が80％以上90％未満
				2 教職員の取組評価で、肯定的回答70％以上80％未満	2 保護者、地域の認知度が70％以上80％未満	2 保護者、地域の認知度が70％以上80％未満
				1 教職員の取組評価で、肯定的回答70％未満	1 保護者、地域の認知度が70％未満	1 保護者、地域の認知度が70％未満